

1) 害虫(交磁場)駆除応援機の簡単な説明

◎ 上部円板体は、永久磁石の配列があり磁気の物理的な性質をRPM化し、連続スペクトル交互磁場を繰り出し1次的には、該害虫に方向知覚を見失わせ、2次的には、栄養摂取行動を攪乱、3次的には、繁殖行動を阻害し、総合的には、生命維持活動を妨害することにある。

1. 大気伝導 ※ 交互磁場振動、伝導(輻射)方法は、

● 永久磁石の強弱 ・ 使用量 ・ 配列 ・ 組み合わせにある。

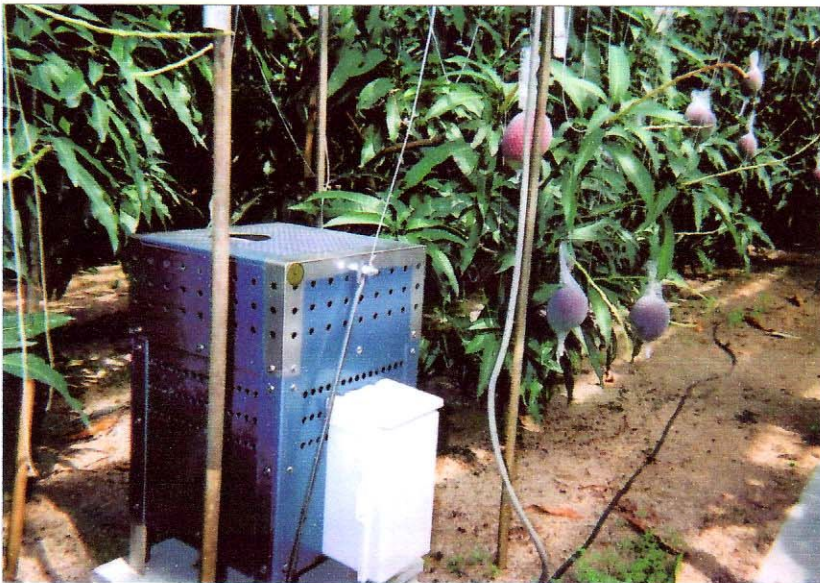
交番振動	} 主に害虫駆除、副として作物 成長促進作用を求める。
パルス振動	

2. 土壌伝導 ※ 交互磁場伝導、振動(電流と波動)方法は、

● 永久磁石の強弱 ・ 使用量 ・ 配列 ・ 組み合わせにある

交番振動	} 土壌害虫駆除及び作物の成長・遅育 (出荷調整等) 作用を求める。
パルス振動	

※ (土中の、地電流を無視できない。又伝導付属品が必要)



松井式害虫駆除装置検証結果報告書

作成日 平成 20 年 11 月 25 日

検証者	住所	宮崎県児湯郡新富町 [REDACTED]
	氏名	[REDACTED]
農業従事経歴		30 年
作物名		シシトウ
検証場所		宮崎県児湯郡新富町 [REDACTED]
面積		1, 324 m ²
定植日		平成 20 年 5 月 10 日
収穫終了日		平成 20 年 11 月 13 日
植え付け本数		1, 100 本
松井式害虫駆除装置	設置日	前記同年 7 月 21 日
	解除日	〃 9 月 28 日 (開発者の都合により途中引上げ)
前記同装置設置「前」		<p>1 花房あたりアザミウマ (通称スリップス) が 1~20 頭前後棲息しており、他方コナジラミの浮遊も多く農薬なしでは、食害果が避けられず止むなく害虫密度を下げるため、</p> <p>※毎週 1 回は該害虫駆除農薬の散布を行っていた。</p> <p>且つ隣接する施設で異種類作物の終期を迎えるころになると生息場所を失った害虫 (スリップス、コナジラミ) が飛散し、当施設へ飛来するのが目視できるころになると、</p> <p>※3~4 日置きに農薬の散布が必要であった。</p> <p>◎1 回当りの農薬散布金額は、5 千~2 万円程度。</p>
前記同装置設置「後」 設置日 7 月 21 日 解除日 9 月 28 日		<p>設置当初は、効果が現れなかったが、週 1 の 2 回目 (7 月 26 日・8 月 2 日) 農薬散布を行った後ころから当施設の害虫を観察するとアザミウマ (スリップス) にあつては、10~20 花房中 1~5 頭程度に減少し、コナジラミについては浮遊もほとんど見られなくなった。また隣接する施設からの害虫飛来はあるものの、当施設内では、作物生育・収穫の阻害要因までの発展に至らず、収穫終期の「11 月 13 日」までの間、農薬の散布は全くしなくてよかった。</p>
所 感		<p>設置後、効果が現れるまでに 4~6 週間の期日が必要と思われる。</p> <p>※特に今回は、夏秋栽培による検証のため、施設外からの害虫飛散も多かったが、毎週行っていた農薬散布が 8 月の 2 週より行わずに収穫栽培している面から見ても、効果が現れていると思うのが妥当と考えている。</p> <p>※促成栽培においてはビニール等で施設外と遮断されるので害虫の飛来も少なく、定植直後より設置すれば、なお一層の効果が期待できると思われる。</p> <p>※他急迫事情で、害虫駆除装置を収穫終期まで使用することができなかったことが残念でならない。</p>

所 見	<p>ヨトウ虫に対しては多少の発生を見たが、アザミウマ（スリップス）、コナジラミに対しては抜群の効果が見られた。</p> <p>（食害果も10kあたり100～200%程度）</p> <p>なお害虫駆除装置は9月28日までの稼働であったが、その後もアザミウマ及びコナジラミの発生を抑制することができたのは、害虫駆除装置が当施設内のアザミウマ、コナジラミの発生や飛散を抑制していたため、成虫が極端に少なくなり産卵や羽化することができずに、最後まで農薬散布をすることなく収穫できたものと考察される。</p>
-----	--

松井式害虫駆除装置途中

検証報告書

作成日2009年3月18日

平成21年3月18日

宮崎県児湯郡新富町

資料1は表示してあるとおり2008年(平成20年)7月~11月までの松井式害虫駆除装置(1号機)の検証結果である。

今期は松井式害虫駆除装置3号機による途中経過報告を行う。

作物名 : シシトウ

検証場所 : 宮崎県児湯郡新富町

面積 : 1.737㎡

定植 : 2008年9月22日(平成20年9月22日)

植え付け本数 : 1,800本

当初、設置したのが2008年(20年)10月22日だが、11月12日まで様子を見るも、効果が現れず、製作者者に連絡し改良と微調整を依頼した。

改良後、11月30日に設置したが、思うような効果が現れず再び12月15日に再度、改良と微調整の依頼をする。

2009年(平成21年)1月25日より設置。

当初、機能及び効力が大幅に増大した機種で効果も1~2週間で現れるとの説明を受けていたため、小生も効果が無いと思いこんでいたのが現状だ。

今回は、1号機と同じく4~6週間の期間を取り検証する事に決め推移を観察
2月8日よりアザミウマ(スリップス)の寄生頭数が極端に減少し始め、現在は数頭を確認するも新しい食害果も確認出来ない。

検証して気付いたことだが、害虫が徐々に少なくなるのではなく、ある程度の期間が経つと急に効果が現れだし短期間で害虫の頭数が減少し始めた。

現状で行けば収穫終期まで農薬の使用を行わずに管理出来るものとする。

また、病気については自然の中に豊富にある納豆菌、枯葉菌を培養増殖してミスト機で

1 週間に1～2回程度散布することによって、発生を抑止出来ている。

3月8日以前は農薬散布を一月に2回行っていたが、今後は殺虫剤及び殺菌剤を散布せず、消費者の皆様にも安全で美味しい品物を胸張って食卓に提供出来ると考える。

また、地球環境面でも飛散した農薬により土壌汚染、曳いては地下水汚染など人類自身に悪影響を及ぼしかねない事態を回避出来るものとする。

松井式害虫駆除装置設置検証結果報告書

検証者： ██████████ 宮崎県宮崎市 ██████████

農業従事経歴： 32年

作物名： イチゴ(さがほのか)

検証場所： 宮崎県宮崎市 ██████████

面積： 20a

定植時期： 平成19年10月23日

植え付け本数： 9,400本

装置設置期間： 平成20年5月7日～平成20年7月20日

設置前： 農薬は3日に一度の散布を行っていた(月に10回)
苗にスリップス・コナジラミ・ダニ(葉に白い膜が出来る)が付着していた。
散布1回当り農薬購入金額は8,000円～15,000円程度
10a当り 散布量は3000～4000

設置後： 設置平成20年5月7日から2週間後にダニ剤とスリップスの農薬
(検証) 散布を施し、その後は念の為2週間に一度の散布を7月迄行う。
イチゴの収穫及び駆除装置の設置は7月20日で終了。その後、1週間で大量のスリップス・ダニが発生していた。7月27日苗の撤去。

感想： 設置して効果が現れるとハウス内の空気も澄み切った様に思われ、
気持ちも良く感じられた。
イチゴの苗も生き生きしていた。最も効果があり良かった事は農薬散布
が月に1～2回で済み、農薬の購入を最小限に押える事が出来た。

検証結果立会保証人 宮崎県宮崎市 ██████████ ██████████ ██████████

松井式エコエネルギー 検証報告資料

松井式害虫駆除応援機設置 平成21年8月5日

作物 インゲン 8月中旬播種

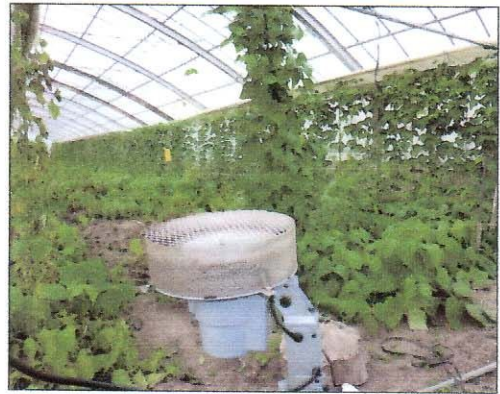
9月中旬収穫始め

12月末収穫終わり 完全無農薬

効果 昨年はハモグリバエやコナジラミに悩まされたが今年はハモグリバエは多少出たものの被害には至らずコナジラミはほとんど見なかった。ただカビの発生が多く長持ちしなかった。



あつたもの
(日照不足)で
該年は天候不良



作物 トマト 9月上旬鉢上げ 品種・ミニトマトアイコ 大玉ソプラノ

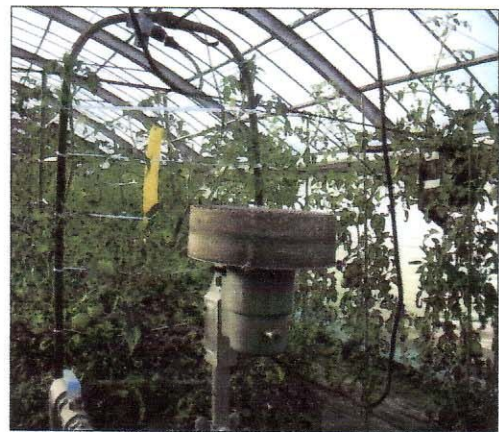
10月上旬定植 堆肥のみの有機栽培

定植前に2回予防薬散をしたのみ、黄化葉巻数本廃棄

1月上旬収穫始め 松井式応援機をトマトに移動

6月中旬収穫終わり 収穫期間は無農薬で葉面散布のみ。

効果 収穫始めてトマトに移動した時点では問題なし。
樹勢は強く大玉で裂果が目立つ(品種の問題か)
コナジラミ・ハモグリバエの発生は3月までなかったが4月に入って発生を見る。
5月初め一回薬散(サンヨール)防除しただけで最後まで樹勢の衰えはなかった。
収量も安定して良好だったが最後まで裂果に悩まされた。
ミニトマトは樹勢の衰えることなく6月まで順調に収穫できた。
例年では後半生長点が細くなって小粒になっていたが今年は後半まで大粒がとれた。



試験協力農家名

〒839- [redacted]

住所 うきは市 [redacted]

氏名 [redacted]

TEL [redacted]